

リフレクションカード 2018年度後期

学科	助産別科
氏名	田中 満由美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
助産学研究演習	1	通年	必修	いいえ	16

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>限られた時間で、研究の基礎について理解してもらうために前半を研究の概説をし、後半を担当教員を決め、担当教員のもと、興味あることからテーマを決め、テーマに沿って研究計画書を完成するという構成にした。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された		
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>担当教員のもと、グループで課題を決定し計画書を作成するに当たり、そのプロセスで教員とのやり取りや学生間でのやり取りで、確実に研究能力が向上していった。構想発表会では、自らの学びをもとに積極的に質問したり、クリティークできていた。短時間ではあるが、研究の基礎を身に着けることができた判断した。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>内容的妥当性あり。到達度の自己評価は全項目3.8以上で、「目標」や「知識」、「事象を理解する視点や考え方を得る」については平均4.0である。</p>
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業の質評価は全項目の平均が3.9～4.1であった。学生の満足度は高かった。科目の性質上、積極的に図書館・インターネット・新聞等を利用し、しらべていた。学習量も多く、多くの学生が予習・復習に時間をさいていた。</p>
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示ください。</p>	<p>総括評価としては本年度の実施方法は学習効果上がり、学生の研究能力の基礎も身につけ、良い方法であったと考える。それぞれの担当教員が指導で多くの時間を割かれるため、バランスを考える必要がある。</p>
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度後期

学科	助産別科
氏名	田中 満由美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
キリスト教と生命倫理	1	通年	必修	いいえ	16

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本学の教育基盤となるキリスト教精神に基づく人間観や世界観について概説する。また、生命科学と医療技術の急速な進歩により生命が人の手によって操作される現代、様々な倫理的課題が浮上している。胎児の権利の擁護、生殖補助医療、代理出産、人工妊娠中絶、出生前診断、に関連した生命倫理に対する課題について説明するとともに学生間で討論を実施し、他者との価値観の相違も踏まえ、生命倫理に対して自己の意見を述べるができるようにする。生命倫理に関する倫理的見地から見た助産師が理解でき、活用できるようにする。本科目の一部は受胎調節実施指導員の資格を取るための読み替え授業の位置づけであり、そのことを念頭に入れて県への申請書に沿った授業を展開した。</p> <p>次年度も受胎調節実施指導員の資格を取るための読み替え授業の位置づけであることから、この形式で実施する予定である。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された		達成された		
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	成績は優秀で、討論とレポートの内容から教育の目的は十分達成できた。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>達成度自己評価は自分なりの目標評価が平均3.6で、その他の項目は3.7～3.9であった。授業の質評価は全項目平均3.9～4.0である。生命倫理と助産師の役割については就職後も継続して考えていくことであり、現段階ではこの得点で良いと考える。</p>
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業の進め方は本年度の方法で学習効果が上がったので、基本的にはこの方法を継続して実施する予定である。学習の方向性については本年度、自分たちで調べ、討論するという時間を作ったことで、学習効果は高まったと判断する。図書館やインターネット、学術データベースの利用が3/4の学生はできていたが、残りの学生は利用しないと回答していたことから、すべての学生が積極的に図書館やインターネット、学術データベースの利用をして発表や討論に臨むようにしたい。</p>
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示ください。</p>	<p>達成状況として目的は達成でき、学習効果も上がったので、授業の進め方は基本的にはこの方法を継続して実施する予定である。図書館やインターネット、学術データベースの利用が3/4の学生はできていたが、残りの学生は利用しないと回答していたことから、すべての学生が積極的に図書館やインターネット、学術データベースの利用をして発表や討論に臨むようにしたい。</p>
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度後期

学科	助産別科
氏名	古賀 玉緒

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
助産診断・ケア学Ⅱ(分娩期)	1	前期	必修	いいえ	16

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	×	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>助産診断・ケア学Ⅰ～Ⅳについては昨年に引き続き、学生が机上での学習をふまえ、助産ケアに必要な援助技術を習得することを意図した講義を展開している。本科目においても同様である。講義に関しては、ほぼ毎回事前課題を提示し講義内容の理解を促した。15回の講義の前半は主に分娩期の生理・産婦の変化・分娩経過・支援の方法について講義を行い、事例演習やDVD視聴を繰り返し行い知識の定着を図った。さらに、後半の技術演習では分娩介助や事例を用いた継続的な記録の書き方を体験できるよう計画し、より実践につながるように講義内容を組み立てて取り組んだ。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された	達成された		達成された	達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>最終的な成績の平均値は78点であり、再試対象者は0名であった。全員が標準レベルに達した。さらに、40%の学生は理想的レベル(概ね80点以上)に達していた。目的別にみると、知識理解に関しては65%、思考判断に関しては77%、態度および技法表現に関しては90、97%であった。周産期を通した知識をふまえて演習に取り組んでおり、DVDを視ながらリアルタイムに対象の状態を把握し記録をする作業なども取り入れ、演習においては自分自身の知識を再確認し課題への取り組みにつながったと考える。さらに、本科目が臨床実習にはおいてはかなり重きを置く科目であることもあり、学生たちも不明な点は自己学習を行うなどして意欲的に取り組んでおり、そのような姿勢も目標達成につながったと考える。</p>					
<p>*根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は「助産の実践領域」のなかの「専門科目」であるが、より専門的で高度な知識と技術を身につけることが必要とされることから、知識理解・思考判断のほか技術表現・態度も含めた講義内容は必要である。受講動機は「必須科目である」100%、ほぼ全員がまじめに講義や演習に意欲的に取り組んでいた。また、DPすべてにおいても標準レベルに達していたことから、内容的には妥当性があったと考える。</p>
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>短期間で集中的に行われる講義であり、学生が関心を持って意欲的に目標に向か って取り組めるよう、毎回、他科目との課題の調整や科目間の関連性を考慮し て講義を進めているが、全員が予習や復習に取り組んでいた。目標達成状況 をふまえ、引き続き同様の形式で実施して行きたいと考える。また、学生 個々の理解度を踏まえ、実習時期や講義内容も考慮し、できるだけ負担の ないよう配慮することは意識していきたい。</p>
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>到達度自己評価では、すべての項目において全員が「そうだと思う」と回答 している。しかし、DP1については他のDPよりやや低い値を示しているが 標準レベルには達していることから、短期間で集中的に行われる講義のなか で、学生の努力がうかがえる。さらに、学生の知識理解が向上していける よう講義の組み立て等工夫していきたい。</p>
-------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度後期

学科	助産別科
氏名	田中 満由美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
助産診断・ケア学Ⅶ(助産過程演習)	1	通年	必修	はい	16

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>必修であるため、全員受講している。助産診断過程についての講義は田中が担当し、事例を通して各期(妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期)は学生各人に対して教員の担当を決め、マンツーマンで助産過程の指導を実施し、各期毎に学生の代表者に発表させ、共通認識しながら演習を進めて行った。学生はマンツーマンの指導や他人の発表を聞くことで助産過程をより理解することができた。この科目は到達度自己評価の全項目が平均 3.6~3.8であった。この科目は助産診断をするにあたって各科目の知識がすべて必要で、助産過程の演習時にはまだ、知識が浅く、知識が助産診断に直ぐ結びつかないで、自己評価の点数が低いのは、仕方ないと判断している。</p> <p>実習で助産過程を展開する際、この科目での習得した技術により、助産診断・助産過程が全員出来ていた。また、実習において、分娩介助1例目より、分娩介助10例目では助産診断・助産過程の展開がスムーズに行えらるようになっており、助産診断・助産過程の基本はこの科目でできていたと判断する。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>各期の事例の展開を担当教員の指導のもと、実施することで、的確な情報収集、アセスメント、診断、計画ができるようになった。また、実習において、受け持ち事例が、助産診断、助産過程がともに展開できたことをもって達成できたと判断した。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>内容的に妥当である。</p>
--	-------------------

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>カリキュラムの性質上、実習前に関連講義を全て済ませておく必要があり、授業が詰め詰めで、学生は課題に追いまかれる状況が続いているが、その中でも課題提出の期限を守り、しっかり課題を実施していた。妊娠期、産褥・新生児期、分娩期でそれぞれの期で、アセスメント・診断・計画を展開するが、各期の展開をこなすのに学生にとって時間的に負担が多いので、コマとコマの間隔を課題に沿って配慮するように検討したい。</p>
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示ください。</p>	<p>助産診断過程についての講義は田中が担当し、事例を通して各期(妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期)は学生各人に対して教員の担当を決め、マンツーマンで助産過程の指導を実施し、各期毎に学生の代表者に発表させ、共通認識しながら演習を進めて行った。学生はマンツーマンの指導や他人の発表を聞くことで助産過程をより理解することができた。 実習で助産過程を展開する際、この科目での習得した技術により、助産診断・助産過程が全員出来ていた。 効果的であったため、次年度のこの形式で実施する予定である。各期の課題提出において、限られた時間の中で、いかに学生の負担を軽減し、目的を達成するか検討する予定である。出身教育課程の違いにより、学生のレディネスに差があるため、担当教員を決める際、十分配慮して担当を決め、指導することが必要である。</p>
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度後期

学科	助産別科
氏名	田中 満由美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
助産管理学	1	通年	必修	いいえ	16

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>病院・助産所における助産管理に必要な基本的知識を身に着けるため、助産管理の基本的概念と管理のプロセス、業務管理、助産業務に関連する概念や関連法規、周産期管理システム、周産期におけるリスクマネジメント、災害時の看護ケアなどについて臨床経験を活かし、事例を示しながら、国家試験も念頭に授業を展開した。資料は特に覚えなければならぬことはカラーを使用するなどの工夫をして作成した。必修であり、国試受験に必要な科目のため、別科全員が履修している。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された		達成された		
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>到達度の自己評価は全項目3.7～3.9であった。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>内容妥当性あり。</p>
--	-----------------

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>予習・復習は2~3回が最も多く、図書館・インターネットの利用が半数強であったが、カリキュラム自体が詰め詰めなので、これ以上の要求はむづかしいかもしれ ない。</p>
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>教育目標は達成できた。成績もよく、国試問題・国試模試の解答合わせについても全員よく正答出来ていた。指示年度も同様の方法で実施する。</p>
-------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度後期

学科	助産別科
氏名	伊藤 直子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
地域母子保健	1	前期	必修	いいえ	16

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	○	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本講義は助産師として、助産師として地域で母子保健を推進するうえで必要な母子保健行政の仕組みや制度、社会資源、保健医療福祉関係職種との連携等について、最近の動向を踏まえ、グローバル社会における今後の活動を展望する講義内容として計画している。本科目の意義を理解し、地域母子保健における意欲関心を深めていくことが必要である。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された		達成された	達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。	<p>最終的な成績の平均値は、82.1(81.3)点であり、再試対象者はいなかった。標準的レベルに達した学生が100(100)%であり、内、理想的レベルに達した学生は、87.5(66.7)%であった。</p> <p>目標別にみると、知識理解に関しては80(81)%、意欲関心に関しては84(81)%、態度に関しては100(92)%であった。前年度()内数値でみられるように、意欲関心・態度は今年度数値が高い状況がみられる。助産師としての地域母子保健を推進するうえでの意義については、全員の学生が十分理解し、授業にも参加する状況が前年度より改善された結果がみられる。</p> <p>学生の到達度自己評価においては、全項目において平均値が3.7～4.0(3.5～3.7)となっており、前年度より高い。</p>					
<p>*根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>DP・CP,カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性</p> <p>本科目は、知識理解、意欲関心、態度に位置付けられた科目である。知識理解に関しては8割、意欲関心に関しては8割、態度に関しては10割の学生が達成していることから内容的には妥当であると考えられる。しかし、意欲関心に関してが他項目から少し低い状況がみられたため、今年度は地域母子保健の内容が母子保健行政や仕組みの理解だけに終わることがないよう、今後の課題及び展望を含めて、学生の意欲関心を高めることに努めた結果、昨年度より意欲関心、態度が向上した。</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。</p> <p>また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>学習量の評価において、予習復習の時間が半数の学生の取り組みとなっている。本講義は3人の教員による展開となっているため、教員間における授業展開についても情報交換を綿密に実施し、授業課題の提供について、学生の学習行動につながる展開を検討したいと考える。</p> <p>授業の質評価においては、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」「期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らかであった」「説明は理解しやすいものであった」「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」のいずれの項目においてもそうでないと思う等の否定的意見はみられなかった。</p>
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>本科目の達成状況については、授業成績および授業評価アンケートより計画している状況は概ね達成できていると評価できる。</p> <p>さらに、授業内容を精選に加え、学生の授業参加への仕組みを検討し、受講学生全員の達成状況が理想的レベルに達するよう検討を加えていきたい。</p>
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度後期

学科	助産別科
氏名	田中 満由美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
子育て支援論	1	前期	選択	いいえ	16

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>講義は子育て支援全般(子育て支援とは・目的・支援施策の歴史・諸問題と理論・現状・関連3法その他の法律)について概説した。また、母子関係への援助、親子関係、家族関係、親力、子育て力について概説した。一方的に講義するのではなく、積極的に学習できるように母子保健施策として実施されている様々な子育て支援を日本を数ブロックに分け、担当ブロックを調査し、担当ブロックについて発表しデータを共有するとともにそれぞれの自治体の背景にあった子育て支援がなされている特徴を学生が、発見することができた。学生は自分たちの担当県との違いなどについて討論した。</p> <p>効果的であったため、次年度もこの形式で実施する予定である。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された		達成された	達成された	
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>一方的に講義するのではなく、積極的に学習できるように母子保健施策として実施されている様々な子育て支援を日本を数ブロックに分け、担当ブロックを調査し、担当ブロックについて発表しデータを共有するとともにそれぞれの自治体の背景にあった子育て支援がなされている特徴を学生が、発見することができた。自分たちの担当県との違いなどについて討論した。学生はレポートから多くの学びを得たことが明らかになった。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>内容妥当性あり。学習達成度の自己評価は全項目平均3.7～3.9である。</p>
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業の進め方については本年度学習効果が上がったため、次年度もこの形式で実施する予定である。学習量については予習、復習をして授業に臨んでいる。図書館・学術データベースの利用が約半数が利用したと回答している。インターネットの検索を3/4の学生が利用していた。これは課題の性質上の特徴であろう。</p>
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>達成状況から方法は効果的であったため、次年度もこの形式で実施する予定である。</p>
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度後期

学科	助産別科
氏名	穴田 和子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
助産診断・ケア学Ⅳ(新生児・乳幼児)	1	前期	必須	いいえ	16

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○		○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>・受講動機をみると「必須科目である」が100%、「資格取得に必要な科目である」が7.1%であり、学生全員が受講している。本科目は助産の実践領域の専門科目であり、資格取得に必要な科目であるため、このような回答になったと考える。</p> <p>・授業内容について、正常新生児に関しては母性看護学領域と重なる講義・演習もあり、事前学習などに取り組みやすかったといえる。また、助産教育の視点より、妊娠期、分娩期、産褥期との継続性・関連性を意識し、知識や技術の習得ができるよう努めた。授業の進行として、まず正常新生児の講義と演習を行い、その後ハイリスク新生児について講義・演習を計画し、疾患に関する病態生理・治療などの講義、NICUでの看護、NCPR(新生児蘇生法)の受講のための学習など、正常逸脱実習との関係性も考慮し、授業を計画した。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された	達成された		達成された	達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>評価は、レポート提出・演習内容・態度など30%、期末試験70%で実施した。最終的な成績の平均値は87点であった。再試験対象者は0名であり、ほとんどの学生が理想的レベルに達していた。</p> <p>・学生による到達度自己評価をみると、「自分なりの目標を達成できた」では、「かなりそうだと思う」が13%、「わりにそう思う」が40%、「まあまあそうだと思う」が47%とすべての学生が肯定的に捉えていた(平均値3.7)。また、自己評価について最も高かった項目は「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲をもつことができた」であり、平均値3.9であった。他の項目についても平均値3.6～3.8であり、すべての項目において、ほぼ全員が「まあまあそうだと思う」「わりにそうだと思う」「かなりそうだと思う」と回答していた。</p>					
*根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。						
<授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は助産の実践領域に位置する専門科目であり、必須である。学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考えられる。学習到達度の自己評価の全項目の平均値は3.6～3.9であり、概ね肯定的な評価と言える。特に「意欲・関心」に関する目標達成について、自己評価の平均値が高かった。</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業の質評価は全項目をみると平均値3.5～3.8であり、すべての学生が肯定的に捉えていたこと(すべての学生が「まあまあそうだと思う」「わりにそうだと思う」「かなりそうだと思う」と回答していた)より、授業の進め方は概ね良かったのではないかと考える。ただ、学習量の評価として、授業の準備・復習を全くしなかった学生はいなかったが、授業における「図書館の図書・雑誌を利用した」について53%の学生が利用していなかったことなど授業の取り組み方について課題が残る。</p>
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示ください。</p>	
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度後期

学科	助産別科
氏名	穴田 和子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
助産診断・ケア学VI(健康教育演習)	1	通年	必須	いいえ	16

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>・本科目は助産の実践領域の専門科目であり、必須科目でもある。授業評価の観点DP1～5においてすべての項目が該当することから、包括的な学習が求められる科目だと言える。</p> <p>・本科目の授業の運営方法はほとんどが演習時間であり、学びは臨地実習につながっている。健康教育を行う際の企画書・指導案作成においては、昨年同様、担当教員を決めマンツーマン形式とし、学生とのやり取りを通し演習を進めていった。また、健康教育の企画書・指導案は実習を見据えて計画していることもあり、実習の準備ができるよう演習内容を検討してすすめた。また、授業が通年であることを活かし、実習での経験を積み重ねながら段階的に習得できるよう計画した。最終的には、教員の助言を得ながら、思春期にある対象者への健康教育を学生自身が内容の選定・企画することも含め実施することを計画している。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された	達成された	やや達成された	達成された	達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>・最終的な成績の平均値は82.9点(最高点93点、最低点73点)であり、再試験対象者は0名であった。学生のほぼ7割が理想レベルに達していた。</p> <p>・観点別にみると、DP1(知識・理解)、DP4(態度)、DP5(技能・表現)の平均点はいずれも理想レベルであった(得点率83.8～93.8%)。また、DP2(思考・判断)についても、ほぼ理想レベル(得点率79.6%)に達していた。ただ、DP3(関心・意欲)は標準レベルに達したものの最も平均値が低く(得点率66%)、意見・質問などの発言状況や演習における取り組み状況について学生間で差が見られ得点に反映されたと考える。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけ</p> <p>本科目は助産の実践領域の専門科目であり、かつ必須科目である。授業評価を観点別にみるとDP1～5においてすべての項目が該当し、包括的な学習が求められる科目だと言える。また、本科目での学習は臨地実習での実践に結びついており、成績評価から見ても内容の妥当性には問題がないと思われる。</p>
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>健康教育の企画書・指導案、実践について、担当教員を決めてマンツーマンの形で学生への助言・フィードバックを行った。学習状況や助言する内容については、学生の個人差もあり一律に進められないことを考えれば担当制は今後も計画していきたい。</p>
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	
-------------------------------	--